

今年度のアンケートの結果とこぴーぬ反町ルームの取り組みについてご報告いたします。

今年度も例年と大きな変化が見られない結果となりました。

人員が充分でないというところは、事業所としては大きな課題です。一般応募しても、ほとんど応募がない現状です。

ホームページの掲載と共に、今年度は足を運び、チラシ配りもしました。何件か応募がりましたが、障がい児への理解不足により支援の難しさを感じてしまう方も多いようです。

今年度はスタッフのスキルアップと基礎的な理解を深めるということを目標にしました。非常勤の方は、特に学ぶ時間や機会が少ないことから、日々の支援の振り返りや勉強会も所内で増やしていきました。また、所外での勉強する機会（自分のペースに合わせた学び）を増やすという目的で特化したサイトを導入しました。プライベートではなかなか学びが進まず、所内にて行うこともしてきました。その点では、個々としては少しずつではあっても支援の役立ちとなりました。

保護者からは、活動内容や児童の個別性を考慮した支援には良い評価をいただいています。短い利用時間の中、今何が必要か、優先順位を考え、個々に必要なプログラムを考えています。特に伸ばしたい課題については、支援を強化して行うようにしていきました。（専門的支援）できるようになった！！ステップアップが見えやすいなど良い点が多いと思います。

障がいのない子どもとの活動の機会を持つことは時間的に難しく、学校休業日に地域のイベントに参加することで交流の機会を作っています。さらに機会を増やせるよう努力していきます。

父母会の開催については、希望される方がいないので、イベントへのお誘いをしています。今年度は、いろいろなイベント（夏まつり、ハロウィンなど）に保護者様やご兄弟に参加して頂くことができ、ご家族様同士の交流の機会も作れたのではないかと思います。

保護者からは、「子どもの日々の様子がよくわかって良かった」との声もいただいております。

地域には、外国籍の方が多いということもあり、今年度から数名の外国籍の方々の利用も始まりました。お子様だけでなく、家族全体のフォローが必要であり、難しさを感じると共に、サポートしていく場所のひとつがデイサービスであることを感じました。他国にいて不安な時、近い存在として関わり「日本に来て良かった。事業所を利用して良かった。」と喜んでいただけるよう、スタッフ全員が同じ気持ちを持ち関わっています。その場その時に必要なことをタイムリーに支援し、対応していくことが必要と考えています。面談やより説明が必要な時は、通訳者を依頼し、理解を深めました。

言葉の問題があり、コミュニケーションがうまくいかず、つまづくこともありますが、今後もどのような状況や課題にも力を合わせて、よりよい施設づくりを目指していきます。